B13 鹿児島県と長崎県におけるタテツツガムシの分布

野田伸一[○]（鹿大・多島園研究センター）・山本 進（鹿大・医・衛生）、吉家清貴・
小田 紘（鹿大・医・細菌）、鈴木 博（長大・熱研・情報）

Distribution of *Leptotrombidium scutellare* in Kagoshima and Nagasaki Prefecture

Noda S., Yamamoto S., Yoshiie K., Oda H. and Suzuki H.

鹿児島県と長崎県におけるタテツツガムシの分布を比較する目的で、黒布法でタテツツガムシの採集を行った。採集は山間部の道に沿って約1 km間隔で行った。鹿児島県では、吹上町助代～伊作峠、福山町福沢～春田、大隅町野町～大崎町麓谷、大隅町萩迫～内山および姶良町内山田～堂山の合計52地点で採集し、41地点（79%）でタテツツガムシ発生が確認された。長崎県では、西彼町八木原郷～大瀬戸町大西平、琴海町長浦岳～大瀬戸町幸物、琴海町風明～飯盛山および千々岩町木場～深江町梶木の合計43地点で採集したが、4地点（9%）でタテツツガムシ発生が確認されただけであった。黒布法による採集時間は数分間で、採集範囲も狭く、採集できなかった場所でもタテツツガムシが分布している可能性は否定できないが、ツツガムシ病患者が多発している鹿児島県では、患者発生が少ない長崎県よりも広範囲にタテツツガムシが分布していると推測される。鹿児島県でツツガムシ病患者が多い理由として、タテツツガムシが多様な植生で広範囲に分布していることが考えられた。

B14 中国山地で見出されたタテツツガムシの浸淫地について

高田伸弘[○]・矢野泰弘（福井医大）・馬庭芳朗（大屋町南谷診療所）・石畝史（福井県衛研）

A *scutellare*-endemic area found in Chugoku Mountains in western Japan
Takada, N., Yano, Y., Maniwa, Y. and Ishiguro, F.

鳥取県境の兵庫県大屋町（氷ノ山南東麓の中山間地域）では、相当前から、秋に多数住民の皮疹発生が言われて来た（同町南谷地区では住民約1,000名の半数）。そこで1997年11月にアンケートを実施したところ、原因は山野の虫かと推測されたので、1998年11月上旬に現地調査を行なった。その結果、南谷地区では”見取り法”で高密度なタテツツガムシの発生を確認、野鼠やイタチにも濃厚寄生を認め（フトゲツツガムシ陰性）、皮疹患者も観察できた。ただ調査後に、タテ密度の低かった地区からツツガムシ病患者を見たが、抗体検査ではKuroki型強陽性であった。タテの確認は中京・紀伊半島より西の中国地方と四国の全域では今回が初記録ながら、引き続き調べた隣接町村、京都府、また岡山・広島・香川・愛媛県の主に瀬戸内側の山間では、タテを見なかった。しかし、一般にタテはスポット的な分布を示すことから、中国山地でも更に散在する可能性は捨て切れず、今後に残された課題かと思われる。

研究協力者：小畑宗機（大屋町保健センター）・北尾玲一（同町立図書館）